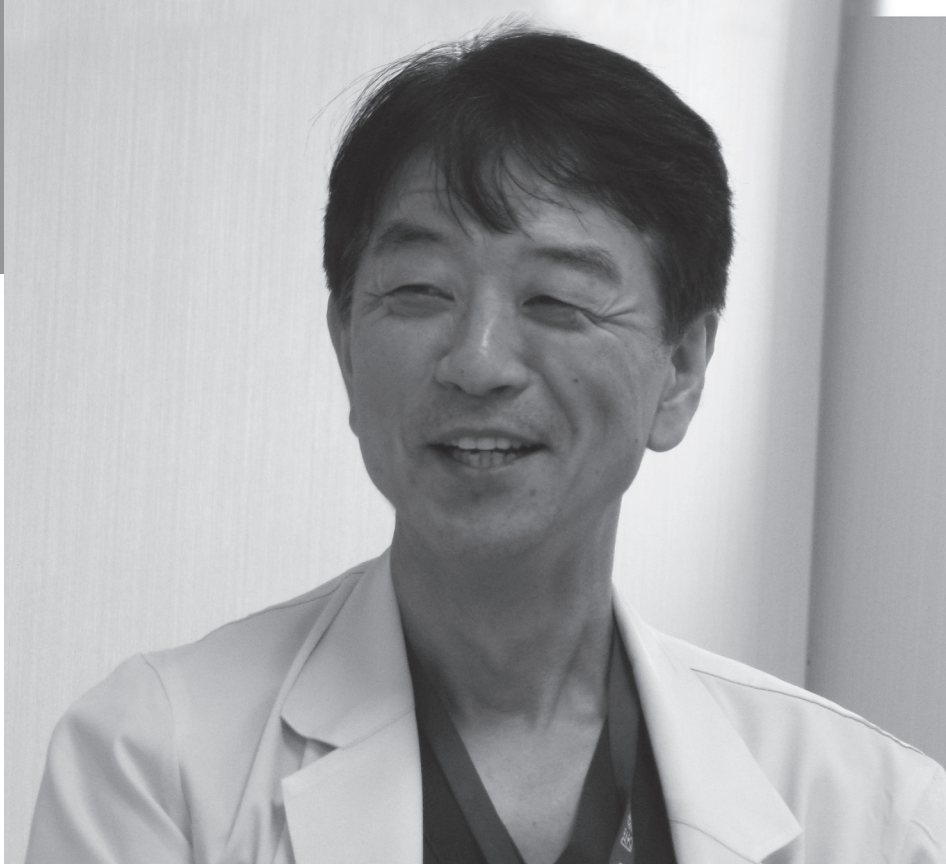


INTERVIEW

青森県立中央病院総合診療部 部長
葛西智徳先生



【プロフィール】 葛西智徳先生 1986年自治医科大学卒業。青森県立中央病院で初期研修の後、国民健康保険大間病院、市浦村国民健康保険市浦診療所、国民健康保険百石病院に赴任。1995年町立田子病院に赴任後、田子病院を老健と診療所に転換、三戸中央病院と連携を図り、2007年より三戸中央病院に副院長として赴任。2010年青森県立中央病院に赴任し総合診療部部長を務める。

地域中核病院から、 地域医療の魂を伝える。

聞き手：山田隆司 公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所所長

求められているところへ行きたい

山田隆司(聞き手) 今回は、青森県立中央病院に葛西智徳先生を訪ねました。まずは、先生の経歴を紹介していただけますか。

葛西智徳 私は青森県出身の自治医大9期生で、卒業後の2年間の初期研修はここ県立中央病院で受けました。その後、国民健康保険大間病院へ2年間赴任した後、津軽半島の市浦村国民健康保険市浦

診療所(当時)という一人診療所へ行きました。そこには3年間いました。それから国民健康保険百石病院に1年間行った後に、県立中央病院に戻って1年間呼吸器科で後期研修を受けました。

山田 義務年限の最終年で後期研修として県立病院に戻られたということですね。

葛西 そういふことになります。そして義務年限が終

了した10年目から町立田子病院へ赴任しました。

山田 先生は義務が明けたら大学に帰ろうなどとは考えずに地域へ行こうと思っていたのですか？
当時すでに田子は医師不足だったのですよね？

葛西 そうですね。求められているところへ行きたいという気持ちがありました。

山田 田子病院はどのくらいの規模だったのですか。

葛西 60床くらいです。自治医大卒業生が2人、大学からの派遣のドクター2人という4人体制でした。当初私は副院長として赴任したのですが、私が行って2～3ヵ月で院長が辞めてしまったのでそれから院長代行を務めました。青森県の自治医大の先輩をお願いして院長として来ていただきました。その先生が2年くらいで開業された後、私が院長に就任しました。

山田 そこには何年いたのですか。

葛西 12年です。

山田 60床の病院の院長というのは人の確保や病院の経営、いろいろな面で相当厳しい状況じゃなかったかとお察ししますが。

葛西 最初の数年間は、まずこの病院を立て直さなければという使命感でがむしゃらにやっていたという感じですね。赤字を解消して、医師不足を解消して、病院をよくしていけば将来が見えてくるだろうと考えていました。

山田 赤字は解消できたのですか。

葛西 はい、当時は殿様経営という体質だったので、経営の改善はやりやすかったですね。5年くらいで赤字はなくなりました。

山田 田子町の人口はどのくらいでしたか。

葛西 当時は7千人くらいです。山の麓の町なので周囲の町から患者が来る要素はほとんどなく、その7千人だけが対象だったのです。ですから地域に密着するという色をつけていかなければその病院の存在意義がなくなってしまうと考えました。

山田 地域に密着した、町民のための病院運営という視点で、それまでと比べてどのように変えていか

れたのですか。

葛西 それまでは急性期医療が中心でしたが、私はリハビリや在宅につなげられる慢性期医療にシフトしました。閉めていた急性期病棟を利用して回復期病棟や慢性期の療養病棟に変えたのです。

その病院は実は私の2代前か3代前の院長がカリスマ院長で、癌の漢方治療で日本全国から患者が集まりテレビにも取り上げられたのです。ところが全国から患者が来るようになると地元の患者にはあまり重きを置かなくなり、地元から総スカンをくらったという経緯がありました。そういうことがあったので、どういうふうにしていくか、ずいぶん悩みました。また、自分がそれまでいた地域では患者さんや地域のことをよく知っていて教えてくれる看護師さんがいましたが、その病院は急性期病院だったこともあり、地域の中で患者さんがどういう暮らしをしているかということを知って教える人がいませんでした。なので、患者さんの情報を得るために福祉関係者との連携に力を入れました。具体的には福祉とデータベースを共有して、在宅や地域の情報をどんどん吸い上げて医療に利用しました。当時は在宅医療の創成期だったので、試行錯誤しながら始めたという感じですね。

山田 赤字を解消し、地域のニーズに応えられる病院になった。ところが病院はその後診療所になりますよね。それは町村合併などが理由ですか。

葛西 実際は自分が赴任した当初から田子病院を「病院」として維持することに懸念がありました。隣の三戸町に三戸中央病院という総合病院があって急性期医療はそこが担当していましたので、田子病院の役割はその病院との接続可能なシステムにしていこうと考えました。ところが三戸中央病院にも医者がいなくなってつぶれそうになってしまったのです。当時三戸には県から医師派遣されていなかったのですが、三戸の病院に医師が足りない状況では、田子病院に医師4人は維持できなくなるだろうと思いました。医